

平成 22 年 5 月 21 日現在

研究種目：若手研究(スタートアップ)

研究期間：2008～2009

課題番号：20830125

研究課題名(和文) 幼児の攻撃行動における認知メカニズムの発達と社会的適応

研究課題名(英文) Development of cognitive mechanisms and social adjustment in aggressive preschooler's

研究代表者

畠山 美穂 (HATAKEYAMA MIHO)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：90510545

研究成果の概要(和文)：本研究では、関係性攻撃と外顕的攻撃に関する道徳的判断や社会的情報処理の発達を明らかにすることである。社会的行動に関する保育者評定、幼児の社会的情報処理及び道徳判断に関する面接、及び、幼稚園でみられる子ども同士の相互作用について観察を行った。その結果、関係性攻撃的な幼児は、向社会的な幼児と比べても社会的情報処理能力に違いが見られないという結果が得られた。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to investigate the social information-processing and judgment in relational and overt aggression. For 101 children, a teacher rating measure was used to assess social behavior(relational aggression, overt aggression, pro-social behavior). The pattern of the social information processing was evaluated by a provocation and ambiguous stories. Observations were made in classroom and playground. In the main results, relationally aggressive children did not have a significant difference in the social information processing score compared with prosocial children.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,370,000	411,000	1,781,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,570,000	771,000	3,341,000

研究分野：幼児心理学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：幼児・関係性攻撃・道徳性・共感性・社会的情報処理能力・仲間

1. 研究開始当初の背景

今日、「いじめ」問題の深刻化や自殺、暴力事件など、子どもをめぐる問題は後を絶たない。そのような中で、教育現場では暴力行為や怒りをマネジメントするといったいじめ予防教育や、いじめ被害者の『相手の痛み』や『思いやり』を捉えなおす心理教育が行われている。

いじめとの関連性が指摘されている行動に関係性攻撃 (relational aggression) がある。関係性攻撃とは、悪口を言いふらして仲間はずれにするなど、仲間関係を操作することによって相手を傷つける攻撃と定義され (Crick & Grotpeter, 1995), 叩く・蹴るなどの外顕的攻撃 (Overt aggression) とは区別される。

外顕的攻撃は男児に多くみられる攻撃形態の一つであり、外顕的攻撃を行う子どもは社会的スキルや社会的コンピタンスを獲得するための重要な機会とされる仲間関係を形成・維持できずに仲間関係から排斥されたり孤立したりしやすく、孤独感などの内的な問題を持ちやすい (前田, 1998)。また、将来にわたって非行や犯罪などの問題も抱えやすいことが報告されている (Parker & Asher, 1987)。関係性攻撃は女児に多くみられ、仲間から拒否されやすく、不安や抑うつ、孤独感といった内的な問題を持つことが示されている (Crick & Grotpeter, 1995; Crick, Casas, & Mosher, 1997; Crick, 1997)。このように、外顕的攻撃だけでなく関係性攻撃を行う子どもも現在から将来にかけて長期的な社会・心理的適応に問題を持つことが懸念され、関係性攻撃をどのように抑制させるのが子どもの心身の発達にとって重要な課題とされている。

2. 研究の目的

攻撃行動を扱った先行研究は、児童期以降を対象としたものが多く、幼児の攻撃性に関する研究の蓄積は急務とされる。数少ない幼児の関係性攻撃に関する研究では、5歳頃から女児の仲間関係の間で関係性攻撃がみられることが明らかにされている (畠山・山崎, 2002)。また、攻撃低減へ向けての保育者の効果的な介入法としては、攻撃による被害者への共感を促すアプロ

ーチが有効であったことから (畠山・山崎, 2003), 関係性攻撃の予防や介入という観点から考えても、幼児期の関係性攻撃と共感性について検討する必要がある。

ところで、社会的情報処理過程は、攻撃行動の生起メカニズムを考える際に有効な手段とされ、社会的場面でみられる情報処理が、1) 手がかりの符号化, 2) 手がかりの解釈, 3) 目標の明確化, 4) 反応検索, 5) 反応決定, 6) 実行の6つの段階を経て行われていることを示している (Crick & Dodge, 1994)。Dodgeらが示した社会的情報処理過程に感情のプロセス (Arsenio & Lemerise, 2004) が関与し、さらには、社会的情報処理の各段階にはデータベースとして組み込まれた道徳的な知識が存在していることから、それらを統合したモデルを提唱している (Lemerise & Arsenio, 2000)。

本研究では、幼児の攻撃行動に関する道徳的判断および共感性、社会的情報処理能力の発達プロセスを関連する諸要因との関係から明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

調査協力者：幼稚園年長児34名、年中児42名、年少児25名と担任保育者

(1) 幼児の仲間調査：保育者に対し、担任している幼児の仲間関係について尋ねた。

(2) 幼児の社会性調査：保育者に対し、担任している幼児一人ひとりについて、社会的行動 (関係性攻撃・外顕的攻撃・向社会性) に関する質問紙調査を行った。

質問項目は、Crick, Casas, & Mosher (1997) の Preshool Social behavior Schale-Teacher Form を翻訳して使用した。担任保育者 (年長児1名、年中児2名、年少児1名) に対し、担任している幼児について、関係性攻撃に関する5項目を非常にあてはまる (5点) ~ まったくあてはまらない (1点) までどちらとも言えない (3点) を中点とした5件法で評定してもらった。従って、関係性攻撃の尺度得点は、5点~25点の範囲にわたり得点が高いほど関係性攻撃の得点が高いこ

とを示す。また、関係性攻撃項目の α 係数を算出したところ、.92であり高い信頼性が得られた。

(3) 幼児の道徳判断・共感性・社会的情報処理調査：幼児に対して個別面接により行った。社会的情報処理能力の査定は、Lemerise & Arsenio(2000), Arsenio & Lemerise (2004)の社会的情報処理ステップのモデルを参考に、幼児の共感性及び道徳的判断を含めた社会的情報処理能力を査定するための課題を作成した。

課題は、相手の意図が曖昧な『曖昧場面』と相手が敵意を持つ『敵意場面』の2つを用意した。また、課題は幼児が理解しやすいように絵カードを使用した。

『曖昧場面』：〇〇君(ちゃん)【被験者】が幼稚園に登園した際、お友だちのタロウ君(ヨシコちゃん)に「遊ぼう」と声をかけました。しかし、タロウ君(ヨシコちゃん)は何も言わずにいなくなっていました。

『敵意場面』：〇〇君(ちゃん)【被験児】が幼稚園に登園した際、お友だちのタロウ君(ヨシコちゃん)に「遊ぼう」と声をかけました。しかし、タロウ君(ヨシコちゃん)は「〇〇君(ちゃん)とは一緒に遊んであげない!」と言って遊んでくれませんでした。

手続き 幼児に対し、社会的情報処理の課題を個別面接法により実施した。『曖昧場面』『敵意場面』を提示したあと、それぞれで以下の質問を行った。

①社会的情報処理第2ステップ(解釈)

「タロウ君(ヨシコちゃん)は、どうして遊んでくれなかったと思いますか?」

(1)あなたに意地悪しようとした(敵意)、(2)用事があった(偶発)、(3)あなたを喜ばせるために面白い話を考えていた(向社会的意図)、の3つの中から選択させた。

②社会的情報処理第4ステップ(反応検索)

「タロウ君(ヨシコちゃん)が遊んでくれなかったとき、〇〇君(ちゃん)【被験児】はどうしますか?(1)叩く(外顕的攻撃)(2)また遊ぼうと誘う(向社会的行動)(3)仲間はずれ(関係性攻撃)(4)何も言わない(非社会的行動)、4つの中から選択させた。

③社会的情報処理第5ステップ(道徳的判断・共感性(感情の認知・情動の共有))

社会的情報処理の第5ステップは、遊んでくれなかった相手に対して、仮に外顕的攻撃や関係性攻撃を用いた場合の道徳的判断や相手への共感性について質問した。

【外顕的攻撃】

③-1「もし、〇〇君(ちゃん)【被験児】が遊んでくれなかったタロウ君(ヨシコちゃん)をパンチしたとします。それは良いことでしょうか、それとも悪いことでしょうか?良い1点~悪い5点の5件法により回答を求めた(道徳的判断)。

③-2「もし、〇〇君(ちゃん)【被験児】が遊んでくれなかったタロウ君(ヨシコちゃん)をパンチしたとします。そしたら、タロウ君(ヨシコちゃん)はどのくらい悲しむかな?すごく悲しむ5点~全然悲しまない1点の5件法により回答を求めた(共感-感情の認知)

③-3「もし、〇〇君(ちゃん)【被験児】が遊んでくれなかったタロウ君(ヨシコちゃん)をパンチしたとします。そしたら、〇〇君(ちゃん)は、タロウ君(ヨシコちゃん)をどのくらいかわいそうだと思いますか?すごくかわいそう5点~全然かわいそうでない1点の5件法により回答を求めた(共感-情動の共有)。

【関係性攻撃】

③-4「もし、〇〇君(ちゃん)【被験児】が遊んでくれなかったタロウ君(ヨシコちゃん)を悪口を広めて仲間はずれしたとします。それは良いことでしょうか、それとも悪いことでしょうか?良い1点~悪い5点の5件法により回答を求めた(道徳的判断)。

③-5「もし、〇〇君(ちゃん)【被験児】が遊んでくれなかったタロウ君(ヨシコちゃん)を悪口を広めて仲間はずれにしたとします。そしたら、タロウ君(ヨシコちゃん)はどのくらい悲しむかな?すごく悲しむ5点~全然悲しまない1点の5件法により回答を求めた(共感-感情の認知)

③-6「もし、〇〇君(ちゃん)【被験児】が遊んでくれなかったタロウ君(ヨシコちゃん)を悪口を広めて仲間はずれにしたとします。そしたら、〇〇君(ちゃん)は、タロウ君(ヨシコちゃん)をどのくらいかわいそうだと思いますか?すごくかわいそう5点~全然かわいそうでない1点の5件法により回答を求めた(共感-情動の共有)。

(4) 幼児の社会的行動の観察：幼稚園での自由遊び及び設定保育について、観察を行い、幼児の攻撃行動が観察された際にフィールドノートに記録した。

4. 研究成果

社会的情報処理課題の得点を分析するにあたり、関係性攻撃の高い幼児(H群)と低い幼児(L群)を抽出するため、関係性攻撃得点の上位30%をH群、下位30%のL群とした。

関係性攻撃における性差を検討するため、関係性攻撃得点の平均点について、性別を独立変数とした一要因の分散分析を行った。その結果、性差は見られなかった。

曖昧場面で用いられた外顕的攻撃と関係性攻撃の道徳判断得点について違いがみられるかを検討するため、道徳判断得点について、3(学年：年少・年中・年長)×2(攻撃の高低：H,L)×2(攻撃方略：外顕的攻撃・関係性攻撃)の分散分析を行った。その結果、攻撃方略による主効果がみられ、多重比較の結果、曖昧場面で用いられた関係性攻撃よりも外顕的攻撃の方が悪いと判断していることが示された。

挑発場面で用いられた外顕的攻撃と関係性攻撃に関する感情の認知得点について違いがみられるかを検討するため、3(学年：年少・年中・年長)×2(攻撃の高低：H,L)×2(攻撃方略：外顕的攻撃・関係性攻撃)の分散分析を行った。その結果、年齢が高く関係性攻撃得点も高い幼児は、年齢が低く関係性攻撃得点が低い幼児よりも、挑発場面において自分が相手を攻撃した場合には相手が悲しむと評価していることが明らかにされた。

挑発場面で用いられた外顕的攻撃と曖昧場面で用いられた外顕的攻撃で共感性の感情認知得点に違いがみられるかを検討するため、外顕的攻撃の共感性の感情認知得点について、3(学年：年少・年中・年長)×2(攻撃の高低：H,L)×2(場面：挑発・曖昧)の分散分析を行った結果、攻撃の高低に主効果がみられ、関係性高群が低群よりも自分が相手に外顕的攻撃を行った場合には相手が悲しむだろうと認知していた。

これまでの国内外で行われた先行研究の結果では、関係性攻撃や外顕的攻撃を行う幼児は共感性が低いと評価されていたが、本研究の結果からは、関係性攻撃を行う幼児は、共感性が高いという新しい見解が得られた。

このことから、関係性攻撃は、社会的スキル

や社会的情報処理能力が欠如しているために行われるのではなく、むしろ、スキルフルで状況をよく認知できる幼児によって行われていることが示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計1件)

伊藤順子・畠山美穂・畠山寛・樟本千里・首藤敏元、共感を基礎とした社会性発達の検討 - 思いやり、攻撃、友情、教育心理学会第51回総会、自主シンポジウム、2009年9月20日 静岡大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

畠山 美穂 (HATAKEYAMA MIHO)
北海道教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：90510545

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：